

# 令和3年度学校経営計画表

## 1 学校の現況

|           |        |         |    |         |   |         |   |      |   |       |   |       |   |         |    |      |   |       |   |    |    |   |    |
|-----------|--------|---------|----|---------|---|---------|---|------|---|-------|---|-------|---|---------|----|------|---|-------|---|----|----|---|----|
| 学校番号      |        | 特2      |    | 学校名     |   | 県立水戸聾学校 |   |      |   |       |   |       |   |         |    | 学校長名 |   | 奥岡 智博 |   |    |    |   |    |
| 教頭名       |        | 遠藤 典子   |    |         |   |         |   |      |   |       |   |       |   | 事務(室)長名 |    |      |   | 月井 敬一 |   |    |    |   |    |
| 教職員数      |        | 教諭      | 51 | 養護(助)教諭 | 2 | 栄養教諭    | 1 | 常勤講師 | 5 | 非常勤講師 | 1 | 実習助手等 | 4 | 寄宿舎指導員  | 15 | 事務職員 | 4 | 技術職員等 | 3 | 嘱託 | 10 | 計 | 99 |
| 幼児・児童・生徒数 | 部      | 1年(3歳児) |    | 2年(4歳児) |   | 3年(5歳児) |   | 4年   |   | 5年    |   | 6年    |   | 合計      |    | 合計   |   |       |   |    |    |   |    |
|           |        | 男       | 女  | 男       | 女 | 男       | 女 | 男    | 女 | 男     | 女 | 男     | 女 | 男       | 女  | クラス数 |   |       |   |    |    |   |    |
|           | 幼稚園    | 1       | 1  | 4       | 2 | 6       | 5 |      |   |       |   |       |   |         |    | 11   | 8 | 4     |   |    |    |   |    |
|           | 小学部    | 3       | 0  | 4       | 4 | 1       | 1 | 1    | 1 | 4     | 3 | 0     | 1 | 13      | 10 | 8    |   |       |   |    |    |   |    |
|           | 中学部    | 5       | 3  | 3       | 3 | 2       | 3 |      |   |       |   |       |   | 10      | 9  | 6    |   |       |   |    |    |   |    |
|           | 高等部    | 5       | 5  | 4       | 3 | 1       | 3 |      |   |       |   |       |   | 10      | 11 | 5    |   |       |   |    |    |   |    |
|           | 高等部専攻科 |         |    |         |   |         |   |      |   |       |   |       |   |         |    |      |   |       |   |    |    |   |    |

## 2 目指す学校像

|                |                     |                 |                      |
|----------------|---------------------|-----------------|----------------------|
| ○安全・安心であたたかな学校 | ○一人一人のよさや可能性を大切にす学校 | ○互いに学び合い、高め合う学校 | ○家庭・地域社会と連携し、信頼される学校 |
|----------------|---------------------|-----------------|----------------------|

## 3 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

| 項 目          | 現 状 分 析                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 課 題                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経営企画         | 経営企画会を月3回開催し、各部、係と連携しながら、学校全体に関する諸問題に組織的に対応している。また、昨年度から聴覚障害教育支援センター長と連携し、月1回、子ども情報共有プロジェクトを開催している。様々な立場で幼児児童生徒の情報共有を図ることで、必要な支援がスムーズに得られるように役割分担等、連携を密にしている。新学習指導要領実施に向けて、学習指導部と連携し、個別の指導計画の様式の見直し、自立活動の目標設定シートやキャリアパスポートの導入を進めてきた。今後も使いやすく効果的な活用が図れるように見直し改善に努める。コロナ感染症対策のために、情報機器係と連携し、学校行事や会議のリモート化を進めてきた。ICTの効果的な活用と働き方改革に伴う教員の仕事の在り方の検討を絡めて、学校行事の見直しや校務の精選を経営企画会を中心に、継続して検討していく。 | 「class room」を活用し、議案の集約や連絡を事前に行い、見通しもった会議運営を行うことで、経営企画会の回数を12月初旬現在で昨年の28回から今年は17回に削減できた。今後も、ICTを活用し、学校全体として会議を精選・時間短縮していく必要がある。学習指導部と連携し、て、道徳全体計画の作成や年間指導計画の様式の見直し、新学習指導要領実施に向けた高等部の通知表の見直し等を進めている。学校行事の反省がきちんと行われていないために、見直し・削減が進まない現状がある。 |
| 学習指導         | 各種検定試験及び各種作品展への出品を実施し、学習に対する意欲と自信に繋がるように努めている。実態把握のための諸検査が円滑に実施できるよう、検査器具の管理に努めている。教科会を組織し、教員の指導力向上に努めている。また、魅力ある図書館となるような環境作りや、読書指導の充実を図っている。情報機器の適切な運用と管理、ホームページやブログによる外部への情報発信、ICT活用の研修と運用を行ってきた。更に、配信メールの新しい運用を構築し、またGIGAスクール構想に基づいたICT活用を推進するための、導入・整備・研修、オンラインの技術的支援を継続していく。                                                                                                     | 外部の作品展によっては校内審査を実施してから、代表を出品するようにと指示のある作品展もあった。外部の作品展へ出展する際にどのように校内審査をしていくかが課題となる。ICT活用においては、多くの教室で電子黒板が整備され、オンライン授業にも対応することができたが、タブレットやそのアプリ、電子黒板等のICT活用スキルをさらに高め、効果的な学習支援へつなげる必要がある。                                                     |
| 生徒指導         | 児童生徒の様々な状況を、教職員間で共有することで、問題行動の未然防止に努めている。スマートフォンやインターネットとマナーに関する生徒指導の充実を図っている。学校生活アンケートの実施、相談窓口の設置など、いじめの早期発見ができるよう努めている。週の開始日に立哨指導を行うことで、児童生徒が安全で安心な通学ができるように努めている。毎月マナーアップ週間を設定し、各部の目標を掲げ、児童会・生徒会が中心となり、あいさつ運動や生活習慣の定着を図っている。                                                                                                                                                        | 学校生活アンケートを行うことで見てきた、長期休業中の幼児児童生徒の課題は、インターネットの使用時間が年齢とともに長時間になっていることである。生徒のスマートフォン等の機器の所持、使用は保護者の責任のもと使用され、スマホ家庭のルールを活用し適切な利用や利用状況の把握に努めている。今後長時間使用することで受ける健康被害についての講演を開催し、理解啓発を促したい。                                                       |
| 研究・研修        | 児童生徒として設定した研究テーマを基に、各部ごとにテーマを決めて研修を行っている。今年度は、関東地区聾教育研究会の英語科の発表が控えているため、それに向けた準備を進めている。また、学校における自立活動の指導力向上を目的とし、月に一度の自立活動研修を行い、情報保障機器の活用方法や、オージオグラムの読み取り方等の聴覚障害教育に関する研修を行っている。手話通訳とUDトークによる会議での情報保障や、手話の普及を目的とした職員向けの手話の勉強会を開催している。                                                                                                                                                    | 聴覚障害教育における専門性の継承が課題であると考える。近年、本校は教員の入れ替わりが激しく、聴覚障害教育未経験の教員の数が増えている。そのため、専門性等を資料などの形に残すことや、それを基にした研修により、共通理解が必要である。また、今年度から作成している流れ図の作成・活用方法も共通理解も必要である。                                                                                    |
| 進路指導         | 学校進学希望者に向けて、適切な進路選択ができるよう大学についての情報提供や模試の設定を担任と連携して進めている。また、主体的な進路選択ができるよう、職場体験や企業見学、インターシップの機会を設定し、部ごとに指導を進めている。今後は職業観、勤労観の育成を目指し、各部や学年に応じた計画的な進路学習について考えていく。さらに、オープンキャンパス、職場紹介などにおけるリモートの積極的な活用にも努める。                                                                                                                                                                                 | 進路指導とキャリア教育が混在し、曖昧になっている点。各学部に一人ずついる進路指導部係の仕事内容がキャリア教育に関するような行事担当だけになっていることや、中学部、高等部の進路指導係は卒業後に向けた進路指導に極端に偏ることなどを考えても、進路指導部という校務分掌をキャリア教育の中の一つとし、キャリア教育部進路指導係のような扱いにした方がよいのではないかと感じた。                                                      |
| 保健安全         | 学校保健給食委員会(2回/年)では、幼児児童生徒の安全のための方策を多角的な面から確認し、ヘルスケア安全委員会(3回/年、必要に応じて臨時)では食物アレルギーの給食対応等、配慮を要する幼児児童生徒の実態の共有理解を図るとともに適切な支援方法を検討している。避難訓練は、学校(5回/年)、寄宿舎(5回/年)の合計10回を予定し、幼児児童生徒のより安全な災害避難をめざしている。また、学校防災連絡協議会を年1回開催し、防災関係機関との連携づくりをしている。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策について、学校医をはじめ、各校務分掌との連携を図っていく。                                                                                                 | 昨年度、新型コロナウイルス対策や食物アレルギーの給食対応についてのマニュアルを整備したため、今年度は軌道に乗って安全な学校生活を運営することができた。しかし、コロナ禍のため、保護者がまとまって来校する機会が減り、引き渡し訓練が実際に近い状況で行うことができなかったり、学校防災連絡協議会が書面開催となったりしたこと、で、家庭や地域社会との連携に課題が残った。                                                        |
| 渉 外          | 本部役員は、文化祭の催しの企画運営や開塾P、高P連等の総会や研修会への参加等、校内と校外の活動を行っている。研修委員会は、講演会または研修会を実施する予定である。広報委員会は、号外と併せて年2回の発行を予定している。進路の卒業生支援係、後援会と連携して、ホームカミングデーの企画を行っている。これらの取組を、保護者と連携を図りながら取り組んでいく。                                                                                                                                                                                                         | コロナ禍の為、文化祭や全塾P、開塾P、高P関係の総会や研修会の開催がほぼ中止になり、リモートもしくは書面での実施となった。研修委員会は、特P連の研修会と抱き合わせで実施した。広報委員会は、広報誌を2回発行できた。今後は、コロナが収まるのを待つのでなく、コロナ禍でもできることを考えていかなければならない。ホームカミングデイに関して、進路指導とのすみわけが必要であると考えた。                                                |
| 聴覚障害教育支援センター | 通級による指導を受ける児童生徒21名、教育相談を受ける乳幼児児童生徒88名(うち乳幼児59名)の、本人と保護者それぞれの教育的ニーズに応じた支援を継続して行っている。聴覚障害のある乳幼児児童生徒が在籍する園や学校および教育委員会、保健・医療・福祉・労働などの関係機関と情報共有しながら連携を図るとともに、聴覚障害教育への理解啓発に努めている。                                                                                                                                                                                                            | 聴覚障害のある乳幼児児童生徒やその保護者、また関係者などのニーズに応じて、来校相談や出向き相談、理解啓発授業や研修支援などをを行った。地域の園や学校に在籍する聴覚障害のある子供で、困り感を持ちながらも支援を受けていないケースをどのように把握し、実際の支援につなげるかが課題である。                                                                                               |

## 4 中期的目標

|                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------|
| ○ 一人一人の発達段階や教育的ニーズに応じた教育を行うための、指導体制、指導方法、指導内容の工夫や研究及び専門性の向上に努める。        |
| ○ 個々の聴覚を最大限に活かすとともに、適切な情報伝達手段の併用により豊かな日本語を習得することで、言語力やコミュニケーション力の向上を図る。 |
| ○ 将来の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるための系統性のあるキャリア教育の充実を図る。               |
| ○ 地域や関係機関等のニーズに応じたセンターとしての役割の充実を図るとともに地域社会に貢献する。                        |

## 5 本年度の重点目標

| 重 点 項 目                  | 重 点 目 標                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 安全・安心な学校、寄宿舎           | ①幼児児童生徒や保護者等との基本的信頼関係の構築<br>②自ら考え、行動できるための避難訓練の工夫と日頃からの防災教育の充実<br>③適切なSNSの活用やいじめ防止の取組の推進(人権意識の高揚)<br>④安全管理・安全教育の推進(平時の危機管理意識の向上)<br>⑤徹底した感染症予防等による安全な教育活動の推進(オンラインによる活動の工夫)                                                                        |
| 2 授業力(構想と実践)・専門性の向上      | ⑥妥当性のある教育計画に基づく「個別最適な学び・協働的な学び」の推進<br>⑦重点化を図った単元計画と評価の工夫(指導と評価の一体化)<br>⑧主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善の推進<br>⑨自立活動における適切な目標設定と指導の工夫(目標設定シートによる指導の明確化)<br>⑩ICT機器やデジタル教科書等の積極的活用と効果の検証<br>⑪多様な障害特性や学び方にあった指導の工夫(UDLの視点)<br>⑫専門家や各係との連携を図った校内研修・校内研究の充実と共有化 |
| 3 自立と社会参加にむけた教育の推進       | ⑬各部の系統性をふまえたキャリア教育の推進(キャリアパスポートの効果的活用)<br>⑭自己理解の促進と一人一人の進路希望等に応じた指導の工夫<br>⑮職場見学や現場実習、作業学習等を含めた職業教育の充実<br>⑯高等部における魅力ある教育課程や学科改編等の整備<br>⑰指導員間の連携強化と自治会活動、スキルアップ講座等の工夫をとおした生活指導の充実<寄宿舎>                                                               |
| 4 豊かな心や健やかな体を育む教育の推進     | ⑱間接的交流(オンライン等)を含めた効果的な交流及び共同学習の推進<br>⑲体力向上にむけた個に応じた取組の工夫<br>⑳養護教諭や栄養教諭と連携した健康教育や食育の推進<br>㉑スポーツ・文化・芸術的活動(部活動含む)の充実<br>㉒道徳全体計画の見直しと発達段階や特性等を考慮した「考え、議論する道徳」の推進                                                                                       |
| 5 センター的機能の充実、地域・関係機関との連携 | ㉓「聴覚障害教育支援センター」としての支援体制の強化と理解啓発(リーフレット等の作成)<br>㉔早期教育、各種相談支援等におけるアセスメントに基づく指導助言の充実<br>㉕個別の指導計画の機能的活用と在籍校との連携を図った通級指導教室の充実<br>㉖HPの充実や学校公開、地域への積極的な働きかけによる理解啓発<br>㉗PTA、同窓会、各関係機関等と連携した活動の推進                                                           |